

中南米

アルゼンチン

概要：2013年3月に開始した青少年健全育成教育、情操教育を行ってきた大学、公共施設で、継続してエイズ予防教育、人格教育を行なうようになり、2016年よりツクマン州、ブエノスアイレス市・州の地域と学校を中心にエイズ予防・人格教育のみを推進していくことになった。

教材は「エイズ時代に生きる」のスペイン語版と自己抑制講義「アモール・ブーロ」のテキストを使用。

実施状況	実施場所	参加者	参加人数
2017	ツクマン（技術学校・国立技術大学・政府機関・ホテル）、サルタ、フファイ（技術学校）、ブエノスアイレス	教師・学生・父兄・学校関係者・有識者・政府機関関係者	657
2018	フファイ、ツクマン、コリエンテス、バンダリオサリ、サルタ、リドロ（キンテロス学校）	友人・知人・学生・VIP/NGO リーダー・州議員・	750



サン・ミゲル・デ・ツクマン市 No.5 技術学校にて授業

ベリーズ

概要：ベリーズでは、13歳の80%がすでに性交渉を行っているという統計があることから、早期のエイズ予防教育が必要と考え、WFPでは、2013年よりエイズ予防教育を実施している。国が行っているコンドーム教育は対処法にしかならず、専門的な知識を教えるエイズ予防教育が必要とされている。

アメリカから講師を招き、「クリーン・スレート・プログラム」の教材を使用し、小学校や中学校でセミナーを開催している。

小学生には「私の体は大切（My body is precious）」という絵本を使って「良いタッチ」と「悪いタッチ」を具体的な例をあげながら、将来の夢をかなえるためには自分の身体を大切に守らなくてはならないということを教えている。

中学生にはアルコールやドラッグが脳に与える影響やSNSなどの危険性、さらに10代の妊娠がもたらす問題など、映像を使って講義している。

実施状況

[2017]

- 10月、首都ベリーズ・シティの3つの学校において、エイズ予防教育セミナーを実施。206人の小学5年生から中学生までが参加。



セイント・ジョン・ヴィアニー・RC・スクールにてセミナー

- E.P.ヨーク中学校はベリーズ・シティ市内で最もレベルの高い学校だが、2人の女子生徒が妊娠・出産して復学していた。

[2018]

- 10月10日、ベリーズ・シティのサミュエル・ヘインズ・インスティテュート・オブ・エクセレンス学校にて、ドミニカ共和国から講師を招き、75人の小学生を対象にエイズ予防教育と人格教育セミナーを実施。
- 10月12日、ベリーズ・シティのセイント・ジョン・ヴィアネイ・RC・スクールにて、4年生86人、5年生65人、6年生84人を対象に、ドミニカ共和国の講師によるエイズ予防教育と人格教育セミナーを実施。

東ヨーロッパ

ベラルーシ

概要：近年東欧地域でHIV感染が爆発的に拡大しているため、政府もエイズ対策に力を入れている。HIV感染が拡大している現状を懸念し、チェルノブイリ原発事故による放射能に対する危機感と共に、心身両面の教育の必要性を提案。「エイズ時代に生きる」のロシア語版を使い、エイズ予防教育と自己抑制教育のセミナーを、現地NGOの青年スタッフの協力で実施。

実施状況

[2017]

- 現地スタッフが積極的に学校でのエイズ予防教育を進めており、合計13回で491人の生徒を対象に実施してきた。



チェチェルスク第2学校にてセミナー

- 10月17日、ゴメリのギムナジアにて、約100人対象のセミナーを視察。

[2018]

- 現地スタッフが合計8回で317人を対象に実施。
- 9月24日、ゴメリのチェチェルスク第2学校にて、78人対象のセミナーを視察。